

社会保障に係る正確な理解について

○社会保障教育の実施に当たっては、これまでのご議論の中で、以下のような注意喚起がなされている

- ・ 社会保障は、「世の中の常識」と「実際」の間の乖離度合いが大きい。「天動説」と「地動説」くらいのレベルである
- ・ いわゆる専門家と言われている人達も含めて、皆が間違っていたというように、常識的にはあり得ないようなことが、社会保障においては起こってしまっている
- ・ よく観察し、よく考えれば、議論は収斂していく
- ・ 一般論で言えば、ディベートは大事であり、考える教育の場は絶対に必要であるが、社会保障の場合はそもそもスタートで勘違いを起こしやすいため、「中立的に仕組みを整理して教えること」を考える必要がある

○特に年金については、

- ①年金は 400 兆円以上の超過債務を抱えている
- ②未納が増えると年金が破綻する
- ③年金は払っただけもらえないので、若者にとっては払い損である

などの論調で語られることも多く、特に世代間の負担の不均衡については、正確な知識と社会保障の基本的な性格についての理解が必要

○社会保障制度の意義など根源的な事項を学習する際、これらの基本的な理解の状況が、学習効果にも大きく影響するものと考えられる

○今後、本検討会の場において、具体的な事例に即して、議論を整理していくことが必要であるとする